

(4) 国内向け貸出の進捗状況

[14 年 9 月末の実績等の状況]

14 年 9 月末における国内貸出の実績(実勢ベース(インパクトローンを除く))は 14 年 3 月末比 5,495 億円の増加となりました。企業規模別では、大企業および中堅企業向け貸出は政府機関向け貸出の増加を主因に 2 兆 5,505 億円増加しましたが、個人向け・中小企業向け貸出は各々 602 億円、1 兆 9,408 億円の減少となりました。

中小企業向け貸出につきましては、今年度の年間増加計画 + 700 億円に対し、14 年 9 月末では大幅に下回っておりますが、これは依然厳しい状況にある景気動向を背景に資

金需要が低迷していること、財務リストラに伴う有利子負債圧縮の動きが依然として強いことに加え、不良債権の早期処理に向けて問題債権の回収も重要な経営課題として取り組んでいること等によるものです。なお、早期健全化法に規定されている中小企業向け貸出の趣旨に反するような貸出は含まれておりません。

健全な経営内容の中小企業に対する円滑な資金供給は、金融機関の社会的責務であり、14年度下期におきましては、貸出資産の健全性を維持しつつ、引続き健全な中小企業に対する資金供給に注力し、15年3月末計画の達成に向けて最大限努力してまいり所存であります。

【15年3月末計画達成に向けての取組について】

計画の達成に向けて、以下の方策への取組みを一層強化してまいります。

第一に、今年度から「融資慣行の見直しとリスクテイク能力の強化」を目的とした「貸出業務改革」に着手しており、資金供給能力の強化に向け、従来の担保依存でなく、原則無担保のポートフォリオ型貸出を積極的に推進しております。

まず、スモールマーケットにおきましては、本年1月末に商品性の改定を行ないました小口無担保貸金商品「ビジネスセレクトローン」の販売に注力しております。TV・新聞等を通じた広告に加え、法人プロモーションオフィスを通じた顧客開拓等、積極的な販売活動を行ない、発売開始から14年9月末までの約8ヶ月間の取扱い実績は、1万件を上回り、金額ベースでも2,000億円を突破しております。また、このうち約半数は、これまで融資取引のなかった新たなお客様にご利用いただいているものであり、これまで実施してまいりました積極的な販売活動が、成果としてあらわれてきているものと考えております。

次に、ミドルマーケットにおきましては、採り上げ基準の明確化・小口分散化によりポートフォリオ型管理を導入した小口無担保貸金商品「ミドルファンド」の取扱いを14年5月に開始いたしました。また、東京都等で取扱い実績のありますCLO方式による資金供給スキームにも積極的に取り組んでおり、当行独自商品である「SMB C-CLO」を創設、地方自治体との提携等により積極的に販売を行なっています。「第1

回S M B C - C L O」は14年7月から募集を開始し、9月に資金供給を行なっております。

以上の通り、資金供給能力の強化に向け、ポートフォリオ型貸出を積極的に推進してきました結果、14年度上期には約1万7,000件、金額ベースでは約5,500億円を取扱うことができ、今年度から着手しております「貸出業務改革」がお客様のご理解を得ながら、着実に進展しているものと考えております。下期におきましては、この取組みを一層強化し、健全な中小企業向け貸出の増強に最大限努力してまいります。

第二に、推進体制につきましても、従前にも増して中小企業の様々なニーズに迅速且つ肌理細かく対応すべく一段と強化しております。

具体的には、中小企業のあらゆるニーズに対応する専門拠点である「ビジネスサポートプラザ」や、積極的に中小企業の資金ニーズの発掘を行なっております「法人プロモーションオフィス」へ人員の戦略投入を図りますと共に、主に中堅・中小企業の取引拠点である「法人営業部」におきましては、中小企業のお取引先が多い拠点につきまして、中小企業専担の部付部長の配置を行なう等、営業推進体制の強化を図っております。厳しい景気動向を背景に企業の資金需要低迷や、財務リストラによる有利子負債削減の動きが一層強まることが予想される中で、貸出残高を増加させることは非常に厳しい課題ではありますが、上述の方策への取組みを一層強化し、15年3月末の計画達成に向けて、最大限努力してまいります。